



# 月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 千葉 (2P) 5297 番

1990.3.17 No. 3182

No.

## 北海道

# 事業団の仲間と熱い交流

## 青年部 3/12 13 14

三月十二日から一四日、北海道の国労清算事業団労働者と動労千葉青年部との交流が実現しました。三月二〇日の解雇予告攻撃との激しい闘いの過中、「解雇撤回・原職復帰」方針を掲げて千葉と北海道で、共に勝利にむかって連帯して闘ってゆく礎をこの交流を通してつくられたと思います。



交流派遣団「うち青年部五名」は、十二日朝五時千葉駅より乗車、空路を利用し、北海道に入り列車を乗り継ぎ音威子府駅に十五時十九分に到着、音威子府清算事業団は、駅のすぐ横にあり現在四八名が「収容」されています。私達が詰め所にくくと、二〇人ぐらいづつが、交替で当局を徹底的

# 3.19.20 ストを決意

に追求していました。詰所には、激布が帯状に壁にぐるりと、張って有り「組合事務所」といった雰囲気です。勤務時間終了後、鈴木分会長をはじめ交流会に七名参加してもらうことができませんでした。「人活にいれられてJRに採用された者はいない」「三月闘争を全力でやりきる。四月以降の問題は、不安もあるが自活体制も含め皆で議論し解決していくしかない。首を切られた怒りが行動をとうした闘いによって組合員も家族もかわってきただ。今こそ分割・民営化の不当性を明確にすべきだ。JRにいる仲間だっ

ていつ首になるかわからないのだから我々と同じだ」「動労千葉の十二月五日のストは、画期的だと思ふ」「労組の違いはあっても反首きりで手を組めるなら共闘していく」等の各人の会話からは、悩みや苦しみをのりこえてたたかっている労働者の姿勢が強くかんじられました。

翌十三日、南稚内駅前にある稚内事業団を訪問しました。この、一年間当局は、点呼を一切おこなわず掲示板に業務指示をはってすぐ逃げてしまふのです。ここでは、八〇名が団結して闘っています。元客貨車区の庁舎は広くいくつもの部屋を班編成で組織しているそうです。勤務終了後稚内駅と駅前要請行動に私達もともに参加し、市民に訴えてきました。交流会では、田中分会書記長をはじめ六名の方々と、交流を深めてきました。「二月二十四日から三月四日まで一九二時間の

ハンストを他単産、地域の仲間がやってくれた。単に国労だけの問題ではない。人権を守れという運動だ」等活発な意見交換ができました。両分会とも闘争資金をつくりだすため様々なアルバイトをやっており東京へも十人、二五人と派遣中でした。今回の初めての交流をさらに今後の動労千葉の闘いにかかしていきたいと思いました。

全くの初対面であるにもかかわらず、我々を心よく受け入れてくれた国労清算事業団の皆さんの声を決して無にすることなく今後の動労千葉の清算事業団闘争に生かしていく決意です。

最後に、この交流派遣のために青年部、親組合員より多大なカンパをいただきました本当にありがとうございます。

# 満を持して19-20ストへ!

48H